

オーストラリア（豪州） 豪中銀は政策金利を0.75%に据え置き

- 豪中銀は10月利下げの後、11月は金利据え置き
- 住宅価格が反発、経済成長率に好循環も
- 外部環境の落ち着きを受け、豪ドルは底堅い動き

■ 豪中銀は予想通り政策金利を据え置き

5日の金融政策決定会合で豪中銀は市場の予想通り、政策金利を過去最低の0.75%に据え置きました（図1）。声明で長期にわたり低金利が続くと予想するのが妥当とし、必要な場合には追加金融緩和の用意があると表明するなど、10月の利下げ後に示された政策姿勢は維持されました。

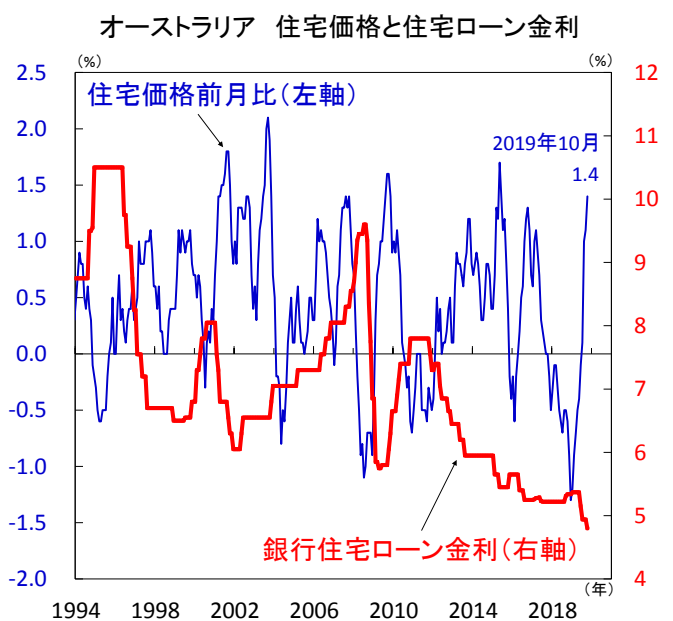
■ 住宅価格の上昇が続き消費を下支えへ

ロウ豪中銀総裁は今年3回の金融緩和が成長とインフレの回復を支えていると表明しています。住宅価格は4ヵ月連続で前月比上昇（図2）、特にメルボルン、シドニーで顕著です。住宅価格反発や所得税減税が消費マインドを改善させ、個人消費を押し上げる効果が期待されます。

■ 早期利下げ観測は後退、豪ドルは底堅い

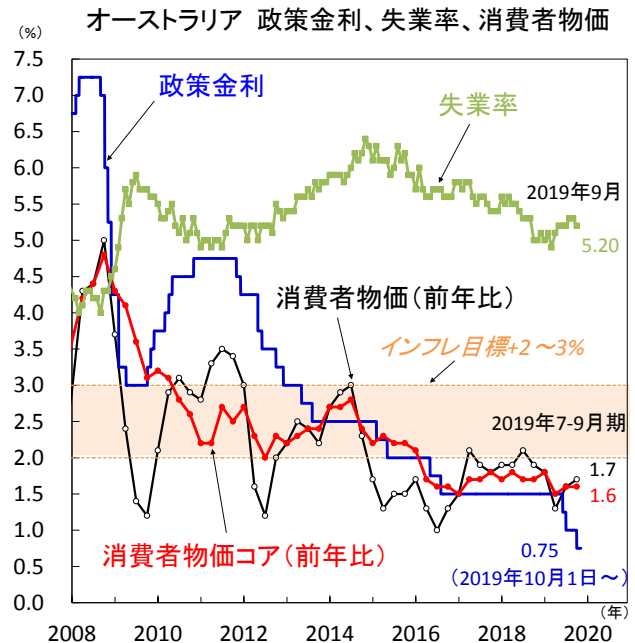
市場予想通りの政策決定に為替市場の反応は限定的でした（図3）。米中通商協議への楽観的な見方により豪ドルは底堅く、早期利下げ観測は後退しています。ただし、豪中銀の利下げ余地は限られており、非伝統的政策実施の可能性もあるため、豪ドルの上値は重いとみまます。（向吉）

【図2】 4ヵ月連続で上昇する住宅価格



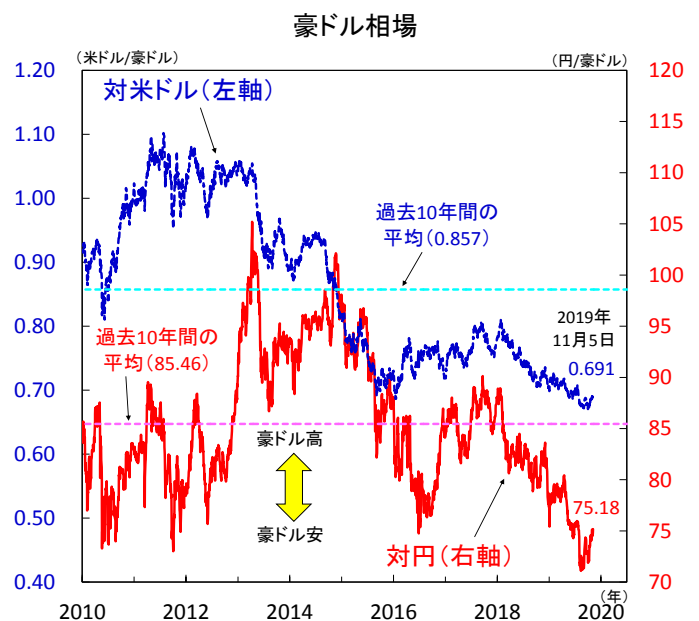
注) 直近値は2019年10月。住宅価格は主要都市、住宅ローン金利は変動金利型。
出所) オーストラリア中銀、コアロジックより当社経済調査室作成

【図1】 失業率は小幅低下、豪中銀は追加利下げ見送るも低インフレは継続



注) 政策金利の直近値は2019年11月5日時点。消費者物価コアはトリム平均。
出所) オーストラリア統計局、オーストラリア中銀より当社経済調査室作成

【図3】 豪ドル相場は底堅い動き



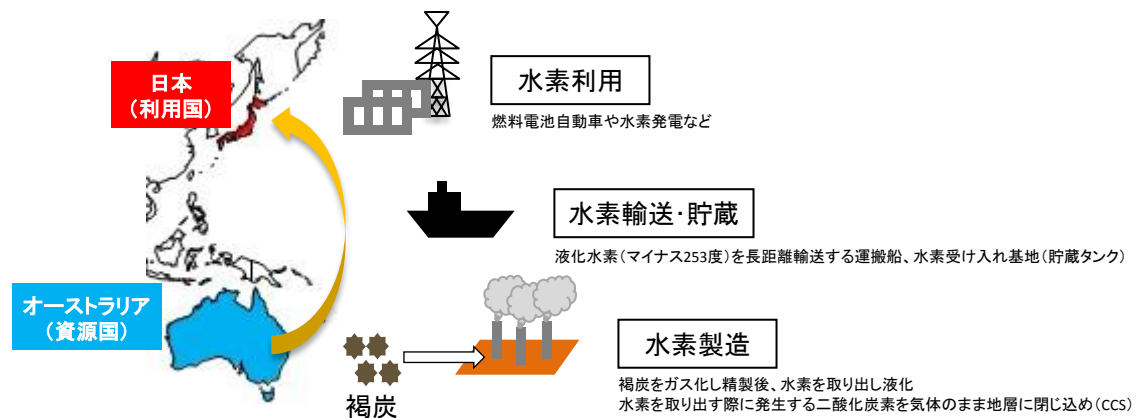
注) 直近値は2019年11月5日（東京時間午後4時時点）。

出所) Bloombergより当社経済調査室作成

【参考】オーストラリアの褐炭利用について

オーストラリアがもつ豊富な資源として石炭が挙げられますが、なかでも褐炭は燃焼効率が低く、使い勝手の悪さゆえ有効活用できずにいました。しかしながら近年、二酸化炭素を排出しないクリーンな次世代エネルギーとして水素の注目が高まるなか、日本とオーストラリアが協力し、褐炭から水素を取り出すプロジェクトが動き出しています。

- 2017年4月 日本で「水素基本戦略」が決定
- 2018年4月 日豪の「褐炭水素パイロット実証プロジェクト」がビクトリア州ラトロブバレーで起工
- 世界初の試みとなる水素エネルギー・サプライチェーン・プロジェクトによりオーストラリアにとって未利用資源である褐炭の有効利用、および水素の生産・輸出の拡大と雇用創出の可能性をもたらすと期待。
- オーストラリアの褐炭埋蔵量は、日本のエネルギー需要240年分に相当、日本が安定的なエネルギー供給を確保する上で重要な役割を果たす見込み。



出所) 経済産業省 長期地球温暖化対策プラットフォーム「海外展開戦略タスクフォース」(第2回会合) 資料より当社経済調査室作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

■本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJ国際投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。■本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。■各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。■本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJ国際投信戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJ国際投信が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会